

令和２年度 第２回 犬山市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和３年１月８日（金）午前１０時～

場所：犬山市役所２階 205 会議室

出席者：18 名中 15 名

1 開会

【事務局】 開会の挨拶を行う。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための諸連絡を行う。傍聴者（２名参加）について、説明を行う。

【磯部会長】 挨拶

【事務局】 犬山市地域公共交通会議の委員数 18 名に対し、本日は 15 名が出席されている。過半数をこえているため、本日の会議が成立していることを宣言する。また、代理出席、配布資料について説明を行う。資料 7 の説明のため、犬山市健康福祉部高齢者支援課上原課長の出席を報告する。

2 議事

【磯部会長】 議事要旨の署名に、中野委員、佐守委員を指名する。

（１）協議事項

■ 令和２年度事業における地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

【事務局】 資料 1－1 「地域公共交通確保維持改善事業・事業評価」
資料 1－2 「事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について」
資料 1－3 「令和２年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）」
の説明を行う。

【磯部会長】 各委員から意見等は。

【吉留委員】 資料 1－1 ⑥事業の目標に対する考察の部分で、「コロナ禍において移動が必要な人の足」とあるが、どのような人であったかというのをもう少し明確に記載した方が良い。また、改善策として、車内の混雑状況を把握できるようにするとあるが、利用者が不安だから乗らないのか、現在の利用状況を事務局としてどのように分析しているのか。

- 【事務局】 バス停ごとの乗降客数データから、駅・病院施設において乗降客数が多く、そのほか、市内施設では市民健康館で多くなっている。
車内の混雑状況を見える化することで、安心して乗っていただくための利用促進施策である。
- 【磯部会長】 積み残しの関係で、この時間だと満員だが、少しずらしてもらおうと乗ることができるというそのために情報を出すということか。どちらかという第1行目はなくてもいいかもしれない。
- 【事務局】 それもあります。1本遅らせてもらうなど。
- 【吉留委員】 もし書くのであれば、分析した結果、利用者減の中には自家用車に切り替えた方もいると思う。そういった方に対して、コロナ対策をしっかりとやっていることを周知していくことが必要。利用者が安心して乗ってもらえる環境づくりや対策をPRしていくというのが1つ課題に対する対策。それを踏まえて混雑状況を把握できる形で導入されると思うのでそれを追加で書いていただく。まずはコロナ対策の周知を徹底するというのを1つ目に書いてもらえるとわかりやすい。
- 【磯部会長】 コロナ対策の話と車内の混在状況を分けた方が分かりやすいので工夫してください。
- 【小林委員】 公共交通、特にバスについては業界が定めているガイドラインに基づき、しっかりと消毒、マスク、手洗い等の対策を取っている。バスの中でクラスターが発生したと聞いていないので、あおい交通さんもしっかりと対策をとっていると思っています。その中で、現在何人乗車しているか混雑状況を把握して情報提供する事業を進められるということですが、もう少し細かくお聞きしたい。乗車人数はどう把握するのか。乗務員自らやる場合、運転業務、接客業務にあわせ、乗車人数の把握まですると大変で安全上問題が出てこないか心配している。どのようにお考えか。
- 【事務局】 現在、乗務員は様々な券種や乗降人数のチェックを紙で集計しているが、それをタブレットに切り替え、券種や乗降人数をタブレット入力してもらう。それがクラウドで集計され、それをバスロケーション上に反映させる仕組みを考えている。従って、乗務員の業務は増えないと思われる。
- 【吉留委員】 自己評価資料は、犬山市のコミュニティバスを含めた公共交通全体の現状、取組み、課題、今後の対応についてコンパクトにまとめたものになる。補助金の為ではなく、犬山市の公共交通を市民にお知らせするものとして活用していただきたい。その中で資料1－3 3ページ目、協議会が目指す地域公共交通の姿についてお聞きしたい。鉄道や岐阜バスを含めた路線バス、コミュニティバス、それぞれの役割についてどのように考えているか。紙面が限られているが、接続する鉄道路線との関係も記載してもらいたい。

- 【事務局】 鉄道は広域的な移動手段ということで位置づけている。市としてはコミュニティバスで駅に繋ぐような体系を考えている。民間バスについては生活交通の部分もあるが、どちらかというトリトルワールドや明治村など観光路線を担っていただいている。観光路線は民間にお願いして、市は生活路線という切り分けをしている。
- 【吉留委員】 目指す姿の修正をお願いしたい。
また、4 ページのバス券の販売について、6,500 円の購入者の内訳を教えてください。
- 【事務局】 内訳は、小学生が 2 人で高齢者（85 歳以上）が 10 人。最終提出の際は資料に追記する。
- 【吉留委員】 犬山市として、この販売実績はどのようにお考えか。
- 【事務局】 協議した際、目標金額を立てたが目標には到達はしていない。改めて PR したい。
- 【吉留委員】 8 ページ目の課題のところ。二つ挙げられており、1 つがコロナ対策、それ以外の課題が 1 つしかない。チェックのところで、コロナウイルスの拡大というのはわかるが、それ以外に減少した理由がないか、コロナウイルスの減少自体も、例えばこういった時間帯、曜日で利用者が減ったのか、新しい生活様式で利用目的自体も変わっていないなど、そういったところも分析しなければ分析をお願いしたい。分析した結果、もう少し他にも課題があるのではないかと感じたので伝えておく。
- 【磯部会長】 資料 1-1 は、必要な人の足という表現をわかりやすく例示を出すなど加えていただきたい。8 ページは、課題 1 を二つに分けて、コロナウイルス対策の周知の話と混雑状況の話を二つに分けて、もう一つ公共施設の話があった。利用状況をもっとよくするために必要なのが 8 ページの課題 2 を意識している。路線のバス停名はわかるが、実際あの施設に行くのにどう行ったらいいか、一本で行けるのか乗り継いでいけるのか。そういった情報が分かると利用者が安心して利用できる。わかりやすくした方がよい。
- 【吉留委員】 事業者に対し、コロナウイルスが収束すれば利用客は戻ってくるかと聞くと、生活様式自体を変えてしまったことで、なかなか利用者は元に戻らないという意見も多い。単に自家用車に切り替えただけであれば、コロナ対策などの周知が必要。他にも利用者の利用目的、適切なダイヤなど利用者の動きの分析も必要。次回以降分析して、自己評価等、今後の次の計画に反映していただければと思う。
- 【磯部会長】 コロナの影響がどういうところに出てきているかを把握していく。コミュニティバス中心に書いているが、他の一般の公共交通の影響と違うところがあるので、どうやって分析していくかが課題。一般的に言われている交通の分

野と、市民の生活を守るためのものと、その辺りを整理して分析することが重要。計画期間がコロナの流行時期とはずれているので、必ずしもマイナス 11% といっても、集計をもう少し後ろまで持っていくともっと減少率が大きくなるかもしれないが。今回のデータで減少率が 11% で収まっているというのは、かなり必要な乗り物だと認識されている。それも含めて、今現在リアルタイムに動いている状況を踏まえて課題として情報を取っていく。そういう姿勢が欲しいということ。整理すると、資料 1－3 8 ページ 新型コロナウイルスの対応として何をやっているか、つまり公共交通の安全性を PR するということと、どのような影響を受けているかを把握して施策につなげること。2 番目は具体的な話で、車内の混雑状況を把握できるようになったので、それをうまく情報提供していく。3 つ目は乗り換え、乗り継ぎも含めて施設への案内をどのようにやっていくか。3 本立てでまとまるかと思う。整理して加筆をお願いします。そういう修正、加筆をするということ踏まえて承認いただくということでよろしいでしょうか。

【委員】 異議なし。

【磯部会長】 異議なしということで協議が整った。

■令和 2 路線変更について（栗栖・富岡線、今井・前原線）

【事務局】 資料 2 「路線等変更について（栗栖・富岡線、今井・前原線）」の説明を行う。

【吉留委員】 今井前原線の折り返し（転回）に安全上の問題はないか。

【事務局】 ポンプ場の駐車場を利用して折り返しをする予定ですが、ポンプ場は常駐施設ではないため、スペースとしては余裕がある。

【小林委員】 今井前原線の移設バス停について、公安協議は。

【事務局】 移設先周辺は交差点もなく、1 本道であったので、公安協議はしていないが、改めてこちらで良いか確認をする。

（2）報告事項

【事務局】 資料 3 「わん丸君バス（犬山市コミュニティバス）利用実績報告」

資料 4 「愛称決定について」

資料 5 「バスロケーションシステム導入について」

資料 6 「バス停留所の安全性確保について」

の説明を行う。

【高齢者支援課長】 資料 7 「高齢者移動支援推進事業について」の説明を行う。

【磯部会長】 新たな移動の仕組みが提案されてきた。わん丸君バスでカバーできていないところがあるのではないかということで、今までにない乗り物も考えてい

いのではという柔軟な状況。

運送は法律に基づいた部分もあり、できることとできないことがあるという現状の中で、中部運輸局はどのようにお考えか。

【吉留委員】 実施内容によっては法律に抵触する話もあるため、整理できた段階で、こちらに事前に相談いただきたい。事業実施イメージが固まったらこちらの地域公共交通会議で説明等あるのでしょうか。

【事務局】 報告する。

【磯部会長】 わん丸君バスではだめだと、だめな理由をしっかりと説明してもらわないといけないと感じる。同じように市民の交通を守ろうという立場があるので、情報交換しながら調整していかないといけない。

【飯坂委員】 高齢者移動支援事業ということで、行政が非常に積極的に考えていただいているのは、利用者としては大きな希望がもてる。会長が言うように、今のコミュニティバスだけではカバーしきれないところをすくいあげるという事も分かるが、利用者の一人としてお願いしたいのは、こういう新しい制度を作る時には、実際に利用する人の意見を具体的に聞き取っているかどうか。アンケートを取られたとあるが、あるものを利用してもっと具体的な要望などを聞くという事が行政の在り方として正しいのではないかと思っている。支援事業の具体的な内容がでているが、老人クラブ連合会長として正に寝耳に水という話で、今のタクシー券の支給の問題など、今日現在の制度の中で改善してもらわないといけない事がたくさんある。日常的にお願いしているが、ほとんど改善されていない。そういう問題を取り残しておいて新しい制度を作っていくというのは、言葉が過ぎるかもしれませんが「姑息な手段」ではないかなと思っている。コミュニティバスの路線変更の問題等いろいろ出ている。例えば先ほど市民健康館のバス停がどういうところかというのがあったが、場所は吹きさらしの所で雨が降ったりした場合、利用者が困る。バス停に雨除けのようなものを作っていただかないと利用者も増えない。単なる利用者を増やそうということではなくて、利用する側の安全と安心を保證するような環境整備もやっていただくというのが当面のやるべき事ではないか。利用者の声を聞いて、新しい制度よりもまず今ある制度を補強する、もっと利便性を高くするようなことをこれからの支援事業を考えていただければと思う。現状の利用者の意見を聞いていただきたい。

【高齢者支援課長】 今回の移動支援に係るアンケートについては、高齢者だけでなく、成人以上を無作為に抽出している。今後このようなサービスが必要になっていくのか。高齢者だけではやっていけない制度ですので、若い世代がどうやって考えているか意見集約したい思いがあった。従って、団体ではなく、市民に対してアンケートを実施した。この場で貴重な意見をいただいたので、持

ち帰って考えさせてください。

【松浦委員】 タクシー事業者との問題があると認識していただきたい。なぜなら、事業実施イメージの④で謝礼を払うとある。そうすると非常にタクシーとモデルが似てくる。利用登録して、電話して、配車されて、白ナンバーのドライバーがお金をもらうという事なので、タクシー事業者にとっては大変な事。我々タクシー業者は、車検、3か月点検、6か月点検、教育・訓練、様々な制約を受けて様々な経費を払って運輸局から許可を得ている。輸送を担う事業者として大変な法制度の中、がんじがらめの中でやって料金をいただいているわけなので、こういうものが展開されていくとタクシー業界としては大反対している。我々は何のためにここまでやってきたのだと。中には燃料費の相当額も、半分ならいいなどいい加減、非常に曖昧。そうすると青ナンバー事業自体がどうなっていくのか、という恐れがこの事業の中にある。犬山でタクシーをやっておられる方々は確実に思っている。利用者だけでなく、交通事業を提供している側も、こんな制度がどんどん出てくると生きていけない、ということだけ認識していただきたい。

【小林委員】 今までバス、タクシーがやってきた中でどのようにすみ分けてこの事業をやっていくか。具体的には出ていないが、対象地域をどのようにするのか、登録者をどのような方たちにするのか。これによってタクシーやバスに影響が出てくる。犬山市はコミュニティバスの路線を拡大して交通ネットワークを構築してきたのに、この制度によって崩れたら心配。一番はドライバーが一般人ということ。タクシーなどは二種免許を取って資格を持った運転手が務めているが、自家用車のドライバーの安全性がどうかということも心配している。

【磯部会長】 運輸事業者が今までいろいろ苦労してきた現実があるので加味していただきたい。病院にはいろんな方が来るので、どんな交通で悩んでいるか情報をお持ちだと思う。そういうところにヒアリングをするなど、どれだけ努力されているか、どれだけ皆さんが困っているか、いろんなところで情報をトータルに集めていかないといけない。地域公共交通会議はこれだけのメンバーを集めているすごい会議なので、いろいろと地域のための交通を良くしていくために頑張っている。それを加味して高齢者移動支援をやっていただきたい。

【吉留委員】 公共交通の事務局として、今の高齢者移動支援について、どのような考えで、どのように連携していくのかも含めて教えてください。

【事務局】 どのような内容の事業になるかということが明確になった上で、きちんと運輸局にも相談し、連携を図っていく。コミュニティバスに乗りたくても乗れない人を救いたいのではないかと個人的には思っている。この高齢者移動支

援事業でカバーできるところと、それもできないところはバスで補完するというすみわけなのかと。ただ、バスやタクシーなどの事業者の方もいるので、そういったところは丁寧に進めていかないといけないと思っている。

【吉留委員】 自治体の中の交通部門と福祉部門がバラバラになってやってしまうのが一番まずい。コミュニティバスを守る事務局としてバス協会、タクシー協会と調整しながら、進めていただければと思う。

【磯部会長】 報告について、他に何か。

【吉留委員】 資料5のバスロケーションシステムについて、更なる周知をお願いしたい。時刻表にQRコードを載せるということは考えられているか。

【事務局】 時刻表を増刷する際には載せる。

【飯坂委員】 2つお願いしたい。まず1つ目。公的な施設が、昨年度は福祉会館が廃館になって別の所へ移動し、今年の3月には分庁舎が解体されるということで、市民が集まって利用する施設が移動したり無くなったりしている。そこで足の確保をお願いしたい。特に栗栖線、先ほど、バス停留所の移動の話があったが、新しい福祉センターの利用者が、少なくとも年間2,000人ほどいる。そこで何かイベントがあると、乗用車が10台から15台が必ず来ている。これが週に2,3回必ずある。その半分がコミュニティバスに乗車する。実際に利用したいという声が圧倒的に多い。運行時間の問題もあると思われるが、そういう所にバス停留所を新しく作るなどをやっていただかないと。今はコロナ禍で全てのイベントが延期や中止をしており、自粛している中で、一般の交通の利用からいけば、コミュニティバスは非常によく使われているのではないかと、私は積極的に評価していいのではないかとと思っている。とにかく公的施設が無くなった場合、移動した所に足がいる。特に町の真ん中にあった施設が郊外に出ているわけですから、そういう所をもっと積極的にバス停留所を新設、あるいは、移設するというようなことをお願いしている。公的施設が移動や廃館となった場合、足の確保について具体的にどういう在り方を考えているのか聞きたい。

【事務局】 福祉会館が廃止になり、福祉センターへ移動した。そこからバス停留所がどれだけ離れているか、そういったところで路線の引き直しなどを判断はしている。令和5年度に今の運行委託契約が切れ、路線の再編を検討するので、の時に合わせて考えていきたい。

【磯部会長】 以上でご意見ありませんので、以上をもって本日の議事を終了する。

【事務局】 磯部会長におかれましては会議のとりまとめ有難うございました。また、委員の皆様にはご審議をいただき有難うございました。以上で本日本日予定の会議を終了いたします。本日の会議をもちまして令和2年度の犬山市地域公共交通会議が最後の開催となります。委員の皆さまにおかれましては、今年

度もご多用の中、また、コロナ禍という大変な状況の中、会議に出席いただき多くの議事を審議いただきましたこと、また、犬山市の公共交通発展に御尽力いただきましたことを、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。誠に有難うございました。

令和3年度第1回目の会議は、6月中下旬頃を予定しております。来年度も引き続き委員の皆さまのお力添えをお願いいたします。

以上

令和３年２月１２日

本書は、令和３年１月８日に開催された犬山市地域公共交通会議の議事要旨に相違ないことを証する。

署名人 佐守 哲也

署名人 中野 雅仁